



区民の皆様へ

第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会

2016

第39号

平成28年9月1日発行

協議会だより

発行 第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会/会長：青木 武雄

編集 総務広報部会 広報委員

生涯学習青少年育成部会

第66回“社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し立ち直りを支える地域のチカラ～

“社会を明るくする運動”は、法務省が主唱し、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

毎年7月を強調月間として、この運動の主旨を広く理解してもらうために、各地区で街頭啓発活動などを行っております。



長野市では、長野市推進委員会の主催で7月1日（金）に、JR長野駅前善光寺口広場で、長野地方検察庁検事正、加藤長野市長代理樋口副市長など関係者・関係団体が出席して式典が執り行われました。



第五地区からは、青木住自協会長、戸谷中御所区長、北村末広町区長、保護司の小林眞氏、松本五十二氏、中嶋英見氏が参加しました。

式典は昭和小学校の金管バンドの演奏で始まり、樋口副市長は「犯罪のない社会を目指すのは誰もが願うものです。しかしながら最近報道される犯罪は、特殊詐欺といわれるオレオレ詐欺が増加しています。これについては市でも広報紙を通じて注意喚起を図り、地域の防犯力を上げていく必要があります。今後この主旨に市民の一人ひとりに協力いただき、長野市がいつまでも犯罪のない住みやすい都市であり続けたいと願って、各地区の住自協にも取り組んでいただいております」とあいさつされました。



このあと、再び昭和小学校の金管バンドの演奏に続き、関係者がうちわを通行人に配布し啓発に努められました。

第五地区からのお知らせ

平成28年度 第五地区地域力向上支援金事業

～第五地区で活動する団体に支援金が交付されました～

平成26年度から始まりました「第五地区地域力向上支援金」は、長野市地域活動支援課が、地域で活動している様々な団体に対し、その活動を支援するための補助金を、応募いただいた事業の中から選考委員会が支援対象事業を決定します。



平成28年度は下記事業が決定しました。地域の活性化や課題の解決に向けて、活用していただくこととなります。

地区	事業主体	事業名・金額	事業の概要
中御所	九反祭典委員会	神楽長胴太鼓の修理 [支援金] ¥148,000	春・秋の祭事に、神楽舞の奉納を行っているが、長期間にわたり使用しているために、太鼓の革部分が破損しており、修理を要する。
中御所	堀組祭典	祭事用祭り提灯の新調 [支援金] ¥142,500	町内の伝統ある春祭り・秋祭りなどの祭事には、祭り提灯は必需品だが、永年の使用により老朽化が激しく、新調したい。
北石堂町	北石堂町区	ノートパソコン一式購入 [支援金] ¥149,029	平成28年度は町内の主要役員が交代し、新たに体制の確立を図るため、役員などがパソコンを活用して、業務を推進する体制を確立し町内の発展、活性化に役立てる。
合計		¥439,529	

用水視察研修

～私たちのまちを流れる用水を視察～

私たちが住む第五地区内を流れる用水は、先人たちが裾花川取水口（里島発電所）より善光寺用水として整備し、人工的に造られた水路の計湯川・漆田川・宮川・古川の4つの用水は第五地区内の稲作など灌漑農業に欠かせない役割を果たしております。

時代の変遷で、既存の用水路もコンクリート護岸化が進んだり、道路用地として利用するためフタがされて暗渠化されるなどその形態も大きく変化し、用水の全体像がわかりにくくなっております。

長野市には7つの用水がありますが、裾花水系の用水を専門家に説明いただくために、昨年に引き続き7月12日（火）に山王堰用水組合の青沼布令元（組合長の意味）、金子顧問（前布令元）のお二人に案内いただき、25名が参加しました。

まず、善光寺平の灌漑用水の取水源である裾花頭首工（里島発電所）を見学しました。ここから善光寺用水として、鐘鑄川と八幡山王堰に分かれ、途中左岸を裾花川幹線導水路で、裾花川の河床を潜って安茂里地区へ水を供給しております。本流は善光寺用水として、県庁西側の大口分水工に至ります。ここは各用水に水を供給するために重要な役目を果たしております。また、各地区の水を需要に応じて供給するために、精密に設計されて分水されているそうです。



午後は、裾花水系だけでは水量が足りないのので、昭和初期から犀川から取り入れている、小田切ダムの犀川頭首工を見学しました。善光寺用水犀川幹線、四ヶ郷導水路としてJR線路の南東側の川合用水などに水を供給しております。

また、四ヶ郷導水路から水を取り入れている、長野市上下水道局犀川浄水場を見学しました。ここは長野市最大の浄水場で、ここで作られた水道水は、ポンプによる直接給水、松ヶ丘



配水池を経由しての小田切、七二会、信更地区への給水のほか、夏目ヶ原浄水場へも補給水として送水され、市内へ給水されています。

旧市内の扇状地を網の目のように複雑に張り巡らされた裾花系水路・犀川系水路の一端を見学して説明を受け、用水の役割や歴史、昔から用水の保守点検・両岸の雑草刈など整備をされている用水組合のご苦労・大切さを理解できました。

安全防災部会

“長野交通安全協会 第五支部総会” 開催

～思いやり 乗せて信濃路 咲く笑顔～

交通量が多い第五地区で、通学・通園路における安全な歩行や正しい自転車利用など、安全指導に努め、交通事故の抑制対策を推進している、長野交通安全協会第五支部の平成28年度定期総会が、6月14日（火）にホテル信濃路で開催され、第五地区住自協から、青木会長ほか各町区長が出席しました。



北村泰邦支部長は「昨年の長野交通安全協会管内の交通事故は、前年に比べて増加しております。私たちを取り巻く交通状況は良好とは言えない状況です。今、私たちにできることは、交通安全意識の向上を地道に住民に訴えていくことと考えます。また、交通安全には地域の協力が欠かせません。」とあいさつされました。

来賓のあいさつの後、議事に移り平成27年度事業報告・決算報告並びに平成28年度事業計画・予算案など一連の議案が承認されました。

また、長野駅前交番宮島所長から「昨年の長野中央警察署管内の交通事故の死亡者は6名で、増加率は全国ワースト1です。子どもや高齢者が道路横断中に被害に遭う事故が増加しています。～横断歩行者の有無を確認～。歩行者は『止まる、待つ、見る、目立つ』を気を付けましょう。引き続き地域の皆さまのご協力いただきたい」と語られました。

最後に、小賀坂広美巡查部長と相棒の二人で、交通安全に関する笑いを誘う寸劇を演じて、アピールされました。



使用済自動車の回収・解体・資源再利用化

～リサイクル社会の構築～

環境委員会では、資源物リサイクル活動に関する視察研修で、7月20日（水）に東御市にある協同組合長野県中古自動車リサイクルセンターを訪れました。

車社会の発展に伴って使用済み自動車の野積み問題をはじめ、廃棄物等の最終処分場の問題など、自然環境の破壊に結び付く多くの問題が提起され、資源の乏しい日本で限られた資源の再利用化、廃棄物の減量化が要請されています。

このような情勢を踏まえて、平成7年に県内の自動車ディーラー37社で協同組合が設立され、使用済自動車を下取りし自動車販売業者の責任において、公害を一切発生させないシステムで、年間2万台の解体処理しております。

組合員から持ち込まれた廃棄自動車を、エアバック、燃料油脂、タイヤ、フロンガスなど前処理で解体分別して、エンジン、トランスミッション、タイヤ・ホイールなどに解体して部品ごとに仕分けされ、部品の大部分が再利用されます。

これらの解体処理された車体は、プレス機で圧縮されて、シュレッダー会社や電炉メーカーに出荷されます。

また、取り外して再使用可能なハンドル・オーディオ機器・バンパー・ドアなどは、組合員ディーラー、整備工場、板金工場、一般ユーザーなどに小売・卸売されます。一部はオーストラリア、ニュージーランド、チリなどに部品として輸出されています。



相互扶助精神に基づき、健全な社会の実現と安全な生活環境に取り組んでいる使用済自動車処理工程を研修しました。

各町からのお知らせ



北石堂町・南石堂町・
未広町より

ながの祇園祭 ～御祭礼屋台巡行～

平成24年から毎年の開催が復活して、今年で5年目となる「ながの祇園祭」が7月10日（日）に4か町（榎堂町、南千歳町、桜枝町、東町）の屋台が曳き出されてまち中を巡行し、2台の置き屋台（北石堂町、南石堂町）が参加して盛大に開催されました。



朝からの雨も上がり、前夜祭の宵山では、北石堂町が置き屋台として出され、藤間千勢津社中の舞踊や山本謙竹社中による三味線・笛・鳴り物が、大勢の観衆の前で披露されました。

夏の疫病を祓うという祇園祭は、10日（日）は午前10時に綱切式の儀式がもんぜんぶら座前で行われ、お先乗りには東町の加藤風雅君（11歳）が神の代理として金色の烏帽子をかぶり、馬に乗って屋台の先頭に立って、市民の健康と幸せを祈り、各町を華やかに練り歩きました。



真夏日の中、午後には未広町の会所に立ち寄り答礼をして、その後南石堂町公民館で休息して、馬共々一息入れて弥栄神社へと出発して行きました。また、南石堂町置き屋台では、花柳利芳社中の舞踊などが披露されておりました。

各町からのお知らせ

南石堂町 より

真夏の夜の恒例 『蟻の市』 ～大勢の人が訪れました～

南石堂町商店街振興組合と南石堂町では、恒例の夏の風物詩『蟻の市』が商店街パーキングで8月4日（木）、5日（金）に開催されました。今年は第61回を迎え、会場の座席を昨年の750席から860席に増設したにも関わらず、日中真夏日の暑さから人々が訪れ、夕方の早い時間帯は、浴衣姿の子どもたちの姿もみられました。また、仕事帰りのサラリーマンやOLによって生ビール・おつまみの出店には長い列ができ、ほぼ満席の状況が続き、盛り上がりがありました。会場内の子どもたちの「蟻んこ村」ではポップコーン、かき氷、射的、綿あめ、金魚すくいなどのコーナーが設けられ、大勢の子どもが順番待ちで並んで群がっておりました。5日（金）の夕方から動物戦隊ジュウオウジャーショーには、沢山の子どもが集まり、真剣に見入っておりました。

また、特設ステージでは、数々の出し物が行われ、冷えたビールなどを飲みながら聞き入る姿など、家族連れ、会社の同僚、お友達同士が飲んだり食べたりしながら、真夏の夜のひと時をそれぞれ堪能しておりました。



この『蟻の市』は、長野市が推奨する地域間交流事業で、第五地区住自協では信州新町地区住民自治協議会と取り組んでおります。今回の『蟻の市』には昨年に引き続き好評であった名物のラム肉「ジンギスカン」をプロの手により鉄板で焼きあげて販売し、売れ行きも大変好調でした。



北石堂町 より

かるかや縁日 ～粋な祭りと、世代の響鳴～

善光寺七福神巡りの第一番寿老人像が祭られ、絵解きの寺として全国にも広く知られている、かるかや山西光寺一帯で夏恒例の「かるかや縁日」が8月4日（木）と5日（金）に北石堂町商店街振興組合などの企画で開催されました。



8月4日（木）は夕方から同寺の縁起にちなんだ絵解き・紙芝居や講師・神田香織さんの「安寿と厨子王伝説平成版」講談や「昭和歌謡」の夕べが開かれ盛り上がりました。縁日境内屋台で、ビアガーデンが設けられ、やきとり・焼きいか・焼きそば・焼きとうもろこしなどが販売され、テーブル席には夕涼みがてら大勢の方が歓談しながら楽しまれていました。そして、千客万来「福引・ビンゴ」では、景品をもらって喜んで持ち帰る姿もみられました。

5日（金）には、西光寺横の錦町通り14丁目広場イベントで、真田勝鬨太鼓・ハワイアンダンスなどが演奏されました。観衆は縁日屋台から飲物・おつまみなどを求めて、演奏に見入ってひと時を楽しんでおりました。



事務局

第五地区の活動にご意見、ご提案がありましたら、各町の区長さんまたは、事務局にお問い合わせください。

〒380-0833
長野市大字鶴賀権堂町2201番地20
権堂イーストプラザND 1階 第一から第五地区合同事務所

TEL 262-1512 (FAX共通)
メール dai5@feel.ocn.ne.jp